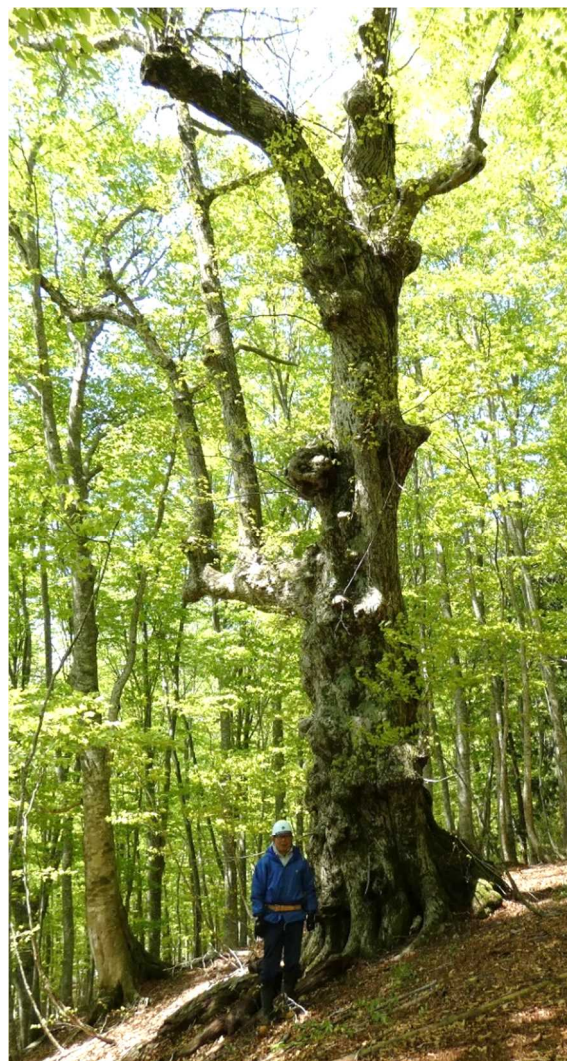


# 白 神 通 信



新たなシンボルツリー「岳岱大ブナ（左）」と「こまいぬシナノキ（右）」

## [contents]

- ◆新たなシンボルツリー「岳岱大ブナ」と「こまいぬシナノキ」・・・・・・・・・・ P2
- ◆令和5年度「中・大型哺乳類調査」「ニホンジカ生息地域調査」開始・・・・ P5
- ◆インバウンド 台湾からの来訪者・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P7
- ◆藤里幼稚園「岳岱探検」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P7
- ◆令和5年度第1回白神山地世界遺産地域巡視員会議・・・・・・・・・・・・ P10
- ◆令和5年度第1回合同パトロール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P11
- ◆小岳巡視棟のヤマネ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P11
- ◆地域より「私と白神山地」白神山地世界遺産地域巡視員 梅田 正弘・・・・ P12

# 白神山地(秋田県側)の新たなシンボルツリー 「岳岱大ブナ」と「こまいぬシナノキ」

## ○シンボルツリー「400年ブナ」の倒伏

岳岱自然観察教育林にある400年ブナは、倒伏前は秋田県側の白神山地のシンボリックな存在であり、300年前後とされるブナの寿命を遥かに超えていると言われ、林野庁ホームページの森の巨人たち百選にも選定されていました。

しかし、樹勢の衰えに加え、令和4年冬の多雪が要因となり、令和4年3月に倒伏しているのが発見されたため、藤里町と東北森林管理局で相談した結果、現地にそのまま保存し、ブナ天然林の自然の営みを観察していくこととしました。



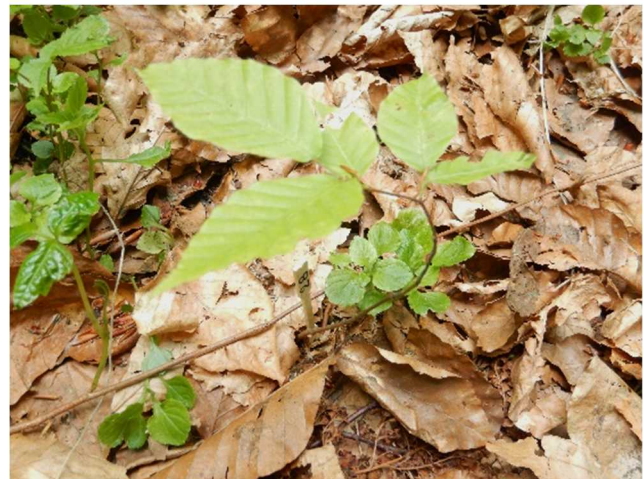
400年ブナ(倒伏)



400年ブナ(倒伏前)



400年ブナ倒伏による林冠ギャップ



林冠ギャップ地表面に出現したブナの稚樹

## ○新たなシンボルツリー

400年ブナが倒伏したことから、藤里町と東北森林管理局において、「400年ブナ」を受け継ぐ新たなシンボルツリーを相談しました。

その結果、岳岱自然観察教育林の看板やパンフレット等で紹介してきた「ブナの巨木」及び「シナノキの巨木」を新たなシンボルツリーとして選定しました。

これらの愛称を「岳岱大ブナ」(ポイント:遊歩道周辺のブナの中で最大。400年ブナの後継樹。)及び「こまいぬシナノキ」(ポイント:遊歩道周辺のシナノキの中で最大。木のコブが神社の狛犬に見える。)と定め、令和4年12月20日にプレスリリースを行いました。



岳岱大ブナ（幹周り 401cm，樹高 31.6m）



こまいぬシナノキ（幹周り 473cm，樹高 30.4m）

（写真は展葉前，展葉期の写真は本号表紙）

○新たなシンボルツリーの周辺整備

岳岱自然観察教育林へのアクセス道路である県道西目屋二ツ井線の冬期通行止め解除を前に、秋田白神ガイド協会、藤里町、東北森林管理局（米代西部森林管理署及び藤里森林生態系保全センター）の3者協働により、来訪者を岳岱大ブナへ導くための新たな遊歩道と、岳岱大ブナを保護するための侵入防止線の整備を行いました。



杭打ち



ロープはしっかり張ります



新たな遊歩道の完成

新たなシンボルツリーは、報道各社の関心も高く、令和5年5月下旬にテレビや新聞等でご紹介いただきました。夏のブナ林、秋のブナ林の黄葉など、季節により表情を変える岳岱自然観察教育林を堪能してください。

○アクセス

- ①大館能代空港から車で約 80 分 ②JR 能代駅から車で約1時間 40 分 ③JR 鷹ノ巣駅から車で約1時間 30 分 ④藤里町役場から車で約 50 分

※5月～10月下旬頃(11月～4月は県道西目屋二ツ井線が冬季通行止め)



# 令和5年度「中・大型哺乳類調査」 「ニホンジカ生息地域調査」始めました

## ○中・大型哺乳類調査

藤里森林生態系保全センターでは、白神山地世界遺産地域モニタリング計画に基づき、ブナ林における動植物の多様性が適切に保護されているかどうか評価する調査項目の一つとして、大型哺乳類の生息数に著しい変動がないか把握することを目的とし、毎年、白神山地世界遺産地域の秋田県側周辺にセンサーカメラを設置して中・大型哺乳類調査を行っています。



センサーカメラ設置作業



24時間撮影しています



カモシカ（大型哺乳類）



ツキノウグマ（大型哺乳類）



タヌキ（中型哺乳類）

## ○ニホンジカ生息地域調査

中・大型哺乳類調査で得られたデータを活用して、遺産地域周辺市町においてニホンジカの生息・定着が見られないかどうかを把握することを目的とし、ニホンジカの生息地域調査も行っています。

本調査では、関係市町との連携による監視が必要と考え、国有林における中・大型哺乳類調査のデータに加え、能代市、八峰町のご協力の下、白神山地周辺の民有林に土地所有者様のご承諾を得たうえでセンサーカメラを設置し、民有林におけるニホンジカ生息地域調査も行っています。

ニホンジカは好き嫌いが少なく、ほとんどの植物を食べますし、カモシカと違い群れで行動することが多く、植物の被害も大きくなります。

また、ニホンジカは繁殖力が強いことも知られています。栄養条件が良ければ、1頭のメスが毎年1頭の子どもを産み、その子どもは1年後の秋には妊娠ができる大人になります。

一方、秋田県でも江戸時代まではニホンジカが生息していたそうですが、江戸時代と比較して、天敵のニホンオオカミが絶滅し、狩猟者人口も激減しており、一度ニホンジカが増えたとその生息数を管理することが難しくなっています。

白神山地でのニホンジカの現状は、この地で繁殖しているのか、越冬しているのかなど、まだまだ不明なことが多く、どこでどのくらい生息しているのか把握する必要があります。

【白神山地でニホンジカを見かけたら藤里森林生態系保全センターまでご連絡ください】  
どこで？何頭？オス？メス？ 分かる項目だけでも大丈夫です。写真があるとなお助かります。藤里森林生態系保全センター TEL:0185-79-1003 担当:仙北谷・盛

写真で見比べてみましょう ニホンジカとカモシカ

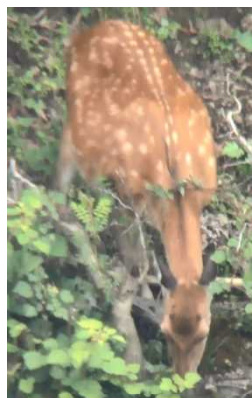
※ニホンジカもカモシカも、白神山地で撮影した写真ではありません。

## 1 ニホンジカ

①保護色で分かりづらいですがメスの小さな群れ、②オスメスともに茶色く白斑点が特徴的な夏毛(これはメス)、③オスメスともに灰褐色になる冬毛(これはメス)、④オスメスともに1年中おしりに白い毛があります(これは冬毛のメス)、⑤オスの角は毎年生え替わりますが小さな角が生えてきた春の冬毛のオス、⑥秋の繁殖期(10月頃)の角が立派になったオス。



ニホンジカ①



ニホンジカ②



ニホンジカ③



ニホンジカ④



ニホンジカ⑤



ニホンジカ⑥

## 2 カモシカ

①写真のように子育て中に親子でいることもありますが基本単独行動で群れは作りません、②オスメスともに小さな角があり生え替わることもありません、③ニホンジカと違っておしりに白い毛はありません。ニホンジカかカモシカか不明なときは、まずおしりを見てみてください。



カモシカ①



カモシカ②



カモシカ③

## インバウンド 台湾からのお客様

令和5年4月17日、藤里森林生態系保全センターに台湾からのお客様がいらっしゃいました。

台湾語はもちろん英語を話せる職員は一人もいなく、お客様がスマートフォンの翻訳アプリを使いこなされており、どうにか展示室のご案内とご説明を行うことができました。

今後も、白神山地へインバウンドのお客様が来られることも考えられ、そういった方々へ白神山地の魅力を伝えるためにも、翻訳アプリを使いこなす必要性を認識させられた1日となりました。



翻訳アプリが大活躍



キツネの剥製に興味津々

## 藤里幼稚園岳岱探検 ～森林環境教育支援～

毎年恒例の藤里幼稚園園児たちの「岳岱探検」は、6月7日、8日の2日間にわたって開催されました。

1日目は、藤里森林生態系保全センター展示室での事前学習です。昔の林業風景コーナーでは大きなノコギリや馬搬（伐採した木材を馬ソリで運ぶ）の写真に目を輝かせていました。この後白神山地に生育している植物を写真で紹介し、キツネなどの剥製コーナーでは毛並みの手触りを楽しんでいました。また、今年からの新メニュー「白神山地の生きものたち」と題した動画で生きものを紹介するコーナーでは、藤里町内でもよく見かけるキジの声に「聞いたことある」と笑顔を見せる園児もいました。



昔の林業風景に見入る園児



剥製の手触りがお気に入り



生きものたちを動画で紹介

また、実習室では木育として、木の枝を使った通称「モックン」の製作を行いました。園児たちはそれぞれモックンを作り上げると、木の輪切りやトチの実など好みの材料を選び、創意工夫しながらアクセサリや置物などの芸術品を作り上げていました。



モックン完成



次は何を作ろうかな？



みんなうまくできました

2日目は、お待ちかね岳岱自然観察教育林での「岳岱探検」です。園児たちは「たんけんカード」にプリントされた花やブナの子ども、モリアオガエルの卵などを探しながら、元気いっぱい岳岱を探検しました。倒伏した400年ブナ周辺でブナの子どもを見つけたり、通称モリアオガエルの池では、モリアオガエルとヤマアカガエルの卵を見つけ、大木にできた大きな空洞の中に入ってみたり、ゴール地点の湧き水では、その冷たさにびっくりしていました。

お昼ごはんの後は、新たなシンボルツリー「岳岱大ブナ」と「こまいぬシナノキ」と一緒に記念撮影も行いました。

2日間の岳岱探検の経験を通して、園児たちが白神山地をはじめとした自然に興味を持っていただくきっかけになれば幸いです。



みんな準備運動



岳岱探検のはじまり



きれいなお花みつけ



400年ブナと記念撮影



ぼくたちの秘密基地



湧き水冷たい！



ぼくはホウ葉仮面



おっきなこまいぬシナノキ





400年ブナの後継樹「岳岱大ブナ」と一緒に記念撮影

藤里幼稚園より

## ☆やったぜ岳岱探検～☆

事前学習はお休みの子が多かったので、当日全員揃うか心配されましたが、全員揃って岳岱探検に参加出来て本当に良かった～！

天気も良くて、ウキウキの子どもたちは、山道でも足取りも速く、気が付くと山の先生をおいて、どんどん先に進んでいってしまう姿も…。岳岱の中で、生き物や植物に触れて、とても勉強になったようですよ！！普段経験できない体験、今度はご家庭で行ってみるのもいいかもしれませんね！！自然の中で食べるお弁当、とってもおいしかったようです♪  
 疲れた子どもたち、帰りのバスではみーんな爆睡でしたZZZZzzz

クロサンショウオの卵！

モリアオガエルの卵！



この絵の「やつ」…  
どこだろう…？



これかな？！



## 令和5年度第1回白神山地世界遺産地域巡視員会議

白神山地への入山シーズンを迎えるにあたり、6月2日、令和5年度第1回巡視員会議を八峰町文化交流センター・ファガスにおいて開催しました。

会議には、今年度新たに巡視員の委嘱を受けた1名を含む巡視員15名、白神山地世界遺産地域連絡会議構成機関から12名が出席しました。

まずは、東北森林管理局巡視員委嘱式が行われ、新規巡視員の山田さんが巡視員を代表して委嘱状の交付を受けられました。

その後、各構成機関より、令和5年度の白神山地に係る事業計画や巡視活動、入山マナー普及啓発の協力依頼、合同パトロールの予定、ニホンジカ等の情報収集等の取組について確認しました。

入山者へ巡視活動へのご理解をいただき、マナーを守り、入山者全員にとって楽しい入山経験となりますよう、関係機関、関係市町、巡視員の方々と連携し、入山マナーの普及啓発に努めていきます。



巡視員会議の様子



新規巡視員の山田さん

## 令和5年度第1回合同パトロール

令和5年度第1回白神山地世界遺産地域合同パトロール（秋田県側）は、白神山地世界遺産地域巡視員、白神山地世界遺産地域連絡会議構成機関により、7月8日に実施しました。

今回は、小岳コース（23名）と、粕毛川コース（18名）の2コースで実施し、入山者へマナー向上の普及啓発パンフレットを配布するとともに、登山道の安全確認、立木の伐採・損傷や植物の採取などの違法行為、ゴミの投棄、病虫害等被害の有無について確認をしました。

パトロール終了後、全員が集合して意見交換会を実施し、登山道の安全確保等々について活発な意見交換がありました。

今回、パトロールを実施した範囲では遺産地域での違反行為等はなく、引き続き巡視や合同パトロールを実施し、広く入山マナーの普及啓発に努めます。



小岳コース



粕毛川コース



パトロール後の意見交換会

## 小岳巡視棟のヤマネ

5月23日、小岳の白神山地巡視管理棟の冬囲い解放と掃除をしていたところ、空段ボールの中に木の皮や雑誌？の切れ端が詰まっていたところ、誰かのイタズラかなと掃除しようとしたところ、中から3匹のヤマネがこんにちは。どうやら巣材を持ち込んで複数頭で冬眠していたようです。

生態系保全センターとしては、巡視棟を野生の生きものも利用していたことをうれしく感じました。

もう春ですよと、そっと山に返しましたが、今年の冬もヤマネに利用していただけるよう、冬囲いの時に空段ボールを増やしてあげようかなと考えています。



巣材の中からこんにちは



かわいいヤマネ

## 私と白神山地

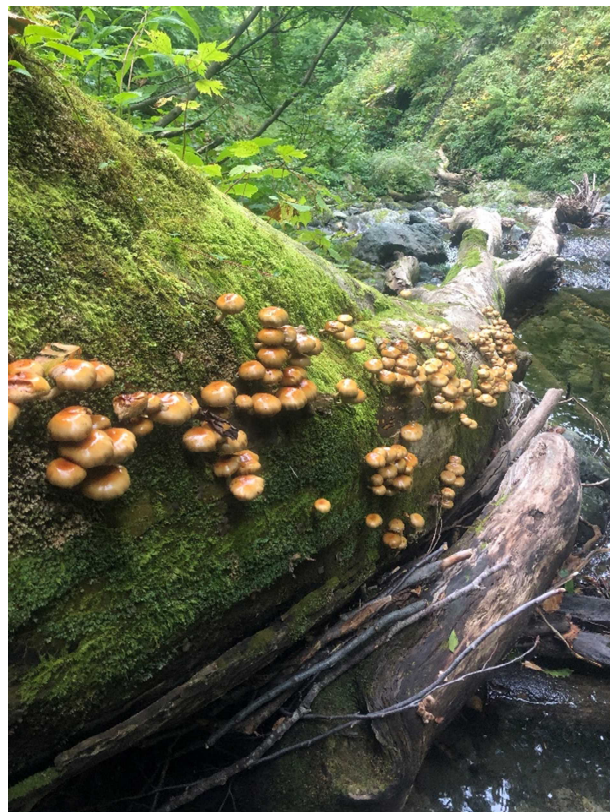
白神山地世界遺産地域巡視員 梅田 正弘

私が白神山地の名前を初めて耳にしたのは当時勤めていた秋田営林局計画課での出来事でした。何やら、林道工事が中止になり、学者先生を森の中にお連れする話で、当時ではんやわんやの大騒ぎでした。

その後、合川営林署、鹿角営林署、寒河江営林署そして京都営林署へ全国のお山を歩きながらいつしか白神山地の存在を忘れていたさ中、退官し生まれ故郷の現在の北秋田市に帰って来ました。



ブナの芽吹き



恵み豊かな白神山地

白神山地が日本初しかも本州では未だにただ一か所の世界自然遺産に認定されたとの話を聞き、元々山歩きが生活の一部だった私は早速世界遺産に指定された地域を巡る計画を立てます。しかし、当時は制定された直後で青森県内の遺産地域に入るにも許可制という事で先々の天気を予測しての計画はなかなか立て辛く実現しませんでした。その代り周囲の白神岳、天狗岳、太夫峰、藤里駒ヶ岳、小岳などを歩き回りながら白神山地を堪能させて頂いておりました。当時ガタガタの林道で私の車では全く歯が立たず、素波里ダムから走って小岳に行った記憶が今でも鮮明に蘇って来ます。そうこうしている内に聞きつけたのが巡視員の制度でした。更に秋田県認定のあきた白神ガイドの制度と、登山スタイルを山岳会中心からガイドとして山の案内に軸足を転向しようとしていた矢先であった為渡りに船と両方の資格を得させてもらいました。

その後同じ巡視員仲間と巡視をしておりましたが、コロナ禍の影響でめっきり巡視日数も減ってしまいましたが、今季からは通常運転再開と意気込んでおります。



恵み豊かな白神山地



次の世代へ命を託す400年ブナ

巡視の他にもあきた白神ガイド協会のお手伝いや、白神体験塾（白神コミュニケーションズ様より）などを手伝わせて頂き、身も心も安まる白神山地の魅力を感じている昨今です。

今年是世界遺産登録30周年の節目の年となりました。今一度世界遺産の価値を見つめ直し、より、多くの方々に豊かな自然を育む白神山地を知って頂けるよう、本当に微力ではありますが、多くの関係者の皆様と共に、後世に自慢の白神山地を残していけたらなあ！と考えています。



向白神岳を見返す私



ブナの肌

※P12～P14の写真は全て梅田さんからご提供いただきました。



(発行)林野庁 東北森林管理局 藤里森林生態系保全センター

TEL:0185-79-1003

「白神通信」QRコードはコチラ →

<https://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/syo/huzisato/>



東北森林管理局広報  
「みどりの東北」  
QRコードはコチラ →



藤里森林生態系保全センター  
ホームページ QRコードはコチラ →

